

特 116

953

橘旭翁作譜

臺灣入

267
180

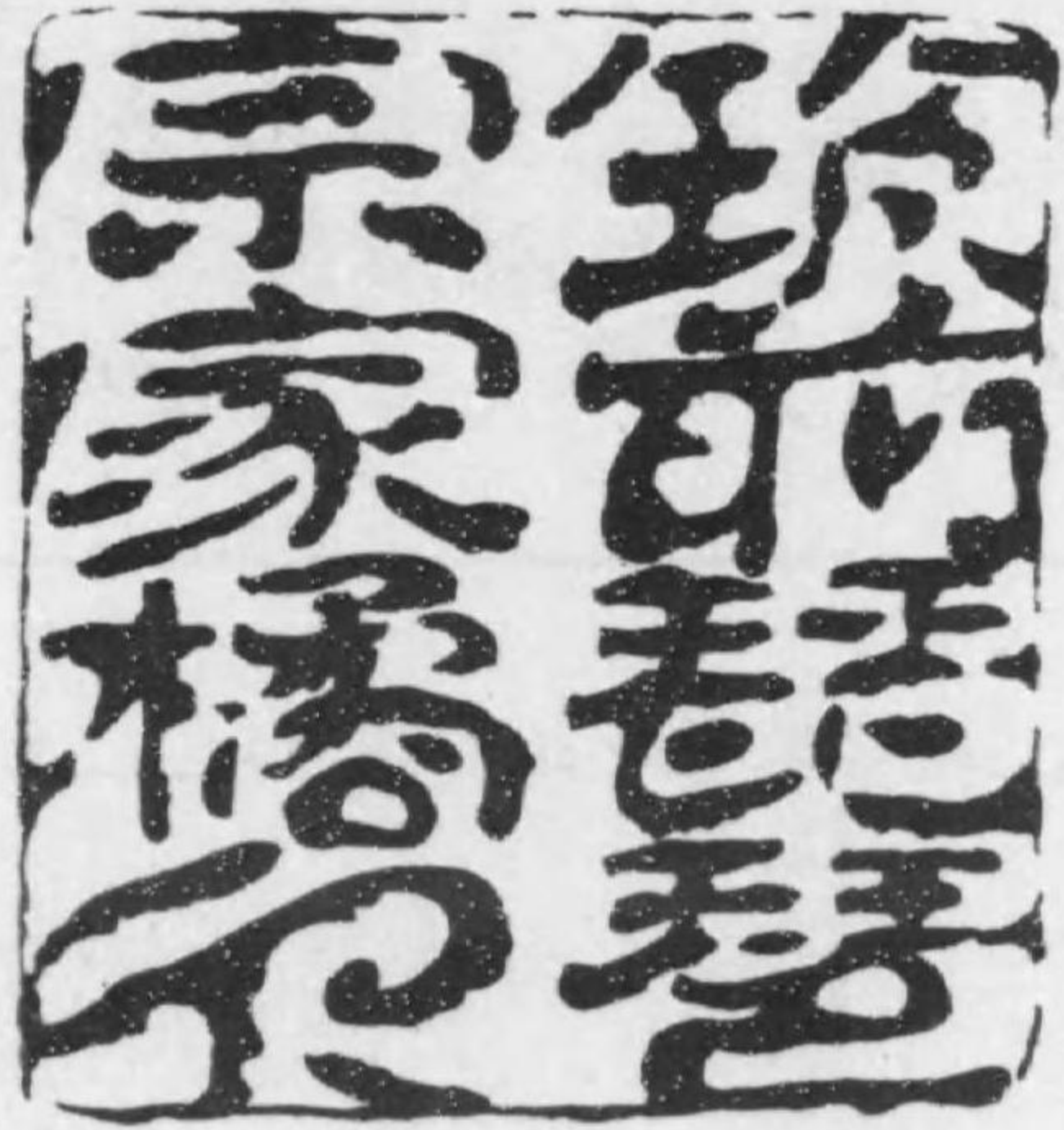


始



特116

953



三 征討の師をぞ遣はさる
三番

六 率ゐて御渡海召れしは
水

七 北白川の宮とて

三 貂角の御上陸
金

木を削りてぞ記さる
六番

七 近衛兵の精銳を

五 陸軍中將大勲位

六 金枝玉葉の御身なり

四 幕營ありし其の跡に

七 炎熱焼くが如き日に

六 貂大嶺の嶮岨を

三 大雨頻りに降る時

四 士卒等これに感激し

四 命を惜まず進軍す
七丁

五 賊兵共の射出す彈丸は
水地

上 夏馬にも召さず越え給ひ

下 濡まぬれてぞ進まる
呼子

四 病兵さへも立ち上り

五 所々の壘に籠りたる

六 雨か霰か白雪の

五 降りそぐが如くにて
二丁下

五 百雷等しく落るに似たり
十二下

六 突貫せよと下知あれば
四番

五 勇み立つたる近衛兵
大打

五 賊の巢窟突て入る
五丁

七 砲烟暗く天を蔽ひ

七 宮は矢石を冒しつこ

四 川村将見島大佐を始め

六 我先きにと奮進し

七 賊共これに氣を吞まれ

六 右往左往に逃散りて
水

五 降参する者数知れず
水地

中 山を築かんばかりにて

二 宮は此時悠々として

四 斯て臺北城を陥れ

七 砲烟暗く天を蔽ひ

七 宮は矢石を冒しつこ

四 川村将見島大佐を始め

六 我先きにと奮進し

七 賊共これに氣を吞まれ

五 或は討たれ生擒られ

上 大砲小銃の戦利品
秋

下 凱歌をトット揚ければ

四 基隆城へらせたまふ
キリス

四 又新竹を占領し

彰化臺灣の兩廳を定め

臺南指してぞ進まる十二番

地嶮くして糧道絶え

宮は士卒と食を分ち

夜は荒野に露營して

十月の初めつ方

天暑くして瘡瘍多く

千辛萬苦の其中に

書は汗馬に鞭をあげ

戎衣の袖に月を宿し

只君の為め國のため

御痛しや悲しやな

餘り艱苦を積ませれ

日々に重らせ給ふより

都に帰らせたまふやう

平定の策を廻ら給ふ

竹の園生の御身に

遂に御病に罹らせ給ふ

御供の人々打ち驚まし

切に御諫め申せども

五 露^ろ宮は聴^き召^め志^し容^{ゆる}れ給^{たま}はず
十一号

五 賊^{ぞく}徒^と平^{へい}定^{てい}を見^みぬち^ちは

三 我^{われ}の又^{また}士^し卒^{そつ}を打^{うち}捨^すて

六 露^ろ輜^しを召^めれ進^{すす}ませらる
十三号

四 賊^{ぞく}徒^と平^{へい}定^{てい}と聞^き召^めし
水

六 我^{われ}れ皇^{くわう}軍^{ぐん}の将^{しやう}として

五 譬^{たと}ひ官^{たい}渡^{わん}の王^{わう}にな^なればとて

五 いかで都^{みやこ}に還^{かへ}らんと

四 御^ご臨^{りん}終^{しゆう}の其^{その}際^{まは}に

五 官^{みや}は莞^{へく}爾^{わん}と打^{うち}笑^え給^{たま}ひ
地

六 萬^{ばん}歳^{さい}とたゞ一^{ひと}と聲^{こゑ}

六 敢^{あえ}なく薨^{せう}去^{きよ}なし給^{たま}ふ

四 今^{いま}目^ま前^{まへ}に見^み参^{まゐ}らせ
金

三 慟^{どう}哭^{こく}せぬはなかりけり
三番

五 老^{ろう}少^{せう}不^ふ定^{てい}に貴^き賤^{せん}なし
十九号下

六 我^{われ}れ皇^{くわう}軍^{ぐん}の将^{しやう}として

五 譬^{たと}ひ官^{たい}渡^{わん}の王^{わう}にな^なればとて

五 いかで都^{みやこ}に還^{かへ}らんと

四 御^ご臨^{りん}終^{しゆう}の其^{その}際^{まは}に

五 官^{みや}は莞^{へく}爾^{わん}と打^{うち}笑^え給^{たま}ひ
地

五 宣^{のたま}ひしはかりにて

三 傳^{つた}聞^きく自^{やま}本^{もと}武^ぶの故^{ふる}事^{こと}を

四 國^{こく}中^{ちゆう}の民^{たみ}も兵^{へい}も

七 乍^{まづ}去^さ昨^{きのう}日^{けふ}今^{いま}自^{おの}は思^{おも}はねど

四 だゞ人^{ひと}は名^なこそ惜^{おし}けれ
五

三 皆人は名を千載に残せかし
みなひと なた せんざい のこ
二番

臺北悠々仁政成
たいほくいゆう じんせいなり

旭光將被臺南地
きよくくわう まさにながらふんすたいなんのち

四 官の詠ひ給ひし如く
みや や いた たま ごと
金

五 輝きわたるぞありがたき
ひかり や へ たり ぞ あり かつ た き
大切

皇軍到處湧歡聲
くわうぐん いたるどころくわんせいわく

皇軍到處湧歡聲

殲彼渠魁安萬生
かのきよくくわいをつくしてばんせいやすんせ

四 盛功偉烈は後の世に
せいこう われつ ち せ
金

六 昔川の水逝きて帰らぬ
またしらかは ぬづ ゆ かも
七

五 月影永く澄みわたりて
つき かげ なが すす たり て
水

三 光は代々に流れなむ
ひかり しろよ ながれ なむ

五 光は代々に流れなむ
ひかり しろよ ながれ なむ
土

264
180

大正二年十二月十二日印刷
大正二年十二月十五日發行

定價 金貳拾貳錢

橋 旭 翁 作 曲
筑 前 琵琶 歌
不許複製
所有
著作權

著者
發行
者權
橋 一 定
東京市麴町區一番町三十二番地

印刷者
畑 中 爲 之 助
東京市京橋區築地二丁目二十一番地

印刷所
國光印刷株式會社
東京市京橋區築地二丁目二十一番地

發行所
橋 筑 前 琵琶 宗 家
東京市麴町區一番町三十二番地

終

